

主 題：恵みシリーズ10、いのちのパンを食べなさい**聖書箇所：ヨハネの福音書 6章47-59節**

どうぞ、ヨハネの福音書6章をお開きください。場所はガリラヤ湖の北カペナウムでした。多くのユダヤ人たちがイエスのもとにやって来ました。主イエス・キリストはこの人たちに「永遠のいのちを受けなさい」とそのメッセージをお与えになったのです。そのメッセージを私たちはごいっしょに学び続けています。もうすでに、私たちが見て来たことは、この永遠のいのちとは何か特別なことを行なうことによって得られるものではないということでした。どんな行ないも救いを得るためには不十分である、イエス・キリストを信じる信仰によって私たちは救いを得ることができると見て来ました。しかも、その救いをいただいたひとり一人は、決してその救いを失うことはないと言われました。

今日は47節から見ていきますが、主は同じことを繰り返して教えておられます。主が人々に教えようとされたメッセージは、今話したように、主イエス・キリストによって与えられる唯一の真の救いを受け入れなさいというものです。ですから、今日も「いのちのパンを食べなさい」というタイトルにしました。それが主が望んでおられることであり、それが主が命じておられることだからです。47節から51節を見ると、再びイエスはここでご自分がだれなのか？ご自分が救い主であることを明らかにしておられます。しかも、51節ではその証拠も挙げておられます。何度か学んで来たことですが、もう一度、私たちは主が教えておられる大切なメッセージを見ていきたいと思えます。

☆主イエス・キリストはだれなのか？**A. 主イエスは救い主 47-51節**

47節には「まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。」とあり、「まことに、まことに、」とはギリシャ語では「アーメン、アーメン」というわけで、言っていることが真実である、言っていることが非常に大切だと主はここで再び言われるのです。「信じる者は永遠のいのちを持ちます。」と改めてここで「主イエスを信じる者は永遠のいのちをもつ」と教えるのです。そして、ユダヤ人たちはパンを食べて満腹しました。二匹の魚と五つのパンで満腹を経験し、それゆえに、イエスの後を付いて来ました。彼らの中には、イエスの後に付いてさえいればいつでもパンを食べることができると思ったからです。そこで、イエスは彼らの関心であったパンから、最も大切な霊的なパンのことを話されるのです。物質的なものを求めていた彼らに、もっと大切なものがある、それは霊的なことだと言って、そのことを話されます。

***主イエスは、ご自分は罪人に「永遠のいのち」を与えることができるということを改めて語っておられます。**そこで、48節から51節の初めまで見ると、二つのパンが比較されています。「モーセが与えたマナ」と「天から下って来たパン」です。しかも、それぞれの効力の違いを明らかにしています。48-49「わたしはいのちのパンです。：49 あなたがたの父祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。」と。イスラエルの先祖は荒野でパンを食べたけれど死んでしまったと。50節は「しかし、」ということばで始まっています。「しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。」とあります。マナは食べたら死んだけれど、天から下って来たパンは死ぬことがないと言われたのです。51節の初めには「わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。」と、50節では「死ぬことがない」と言い、51節では「永遠に生きる」と、同じことを否定的に、また、肯定的に話しているのです。明らかに、この二つのパンには異なった効力があると、そのことが教えられていることに皆さんはお気づきになったことと思えます。

それだけではありません。50節をもう一度見てください。「しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。」とこのように訳されていますが、実は、原語にはこの文頭に目的を表わす接続詞が付いています。ですから、それを入れて後半部分を直訳するとこのようになります。「それを食べる者はだれも死なないために、」と。天から下って来たパン、どうしてパンが天から下って来たのか？その目的です。それは「それを食べる者がだれ一人として死なないために」です。ですから、主は明確に、天から下って来たパンであるご自分がなぜこの世に来たのか？その目的をここで明らかにしておられるのです。

このみことばを見ると、「食べる」「飲む」「信じる」ということばが繰り返し出て来ます。例えば、47節には「信じる者は永遠のいのちを持ちます。」、50、51節には「食べると死ぬことがない」、「食べるなら、永遠に生きます。」とあります。お分かりのように、ここでは「食べる」「飲む」「信じる」が同義語として使われています。同じことを言っているのです。ですから、イエスは「信じなさい」「食

べなさい」「飲みなさい」とすべて同じことを言われるのです。主イエス・キリストを信じる者たち、信仰について、救いについてイエスは話されています。先に進む前に、見ておいていただきたいのは、50節の後半「それを食べると死ぬことがない」です。

・「死ぬことがない」について

これは「肉体的な死」のことではないことは明らかです。イエスの時代の人たちはみな死に絶えましたから、これは肉体的死ではありません。では、いったい何を指しているのか？これは「第二の死」です。聞きなれないことかもしれませんが、黙示録にはこのことばが二度出て来ます。その一箇所は20：14です。「それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。」と。「第二の死」は聖書に出て来ることばです。その「死」のことをここで言っているのです。では、これはどのような「死」なのか？説明します。

・「第二の死」には二つの死が含まれる

(1) **霊的死**：これは生まれながらの人間はみなこの状態ですが、いのちの源である神との関係が断ち切られているのです。ですから、神が与えてくださる永遠のいのちを持っていないし、神が与える祝福ももっていないのです。生まれながらの人間はみなそうです。霊的に死んでいるのです。肉体的には生きていても神と繋がっていないから、神が与えてくださる永遠のいのちも祝福ももっていない、その状態を「霊的に死んでいる」と言います。

(2) **永遠の死**：もう一つの死は「永遠の死」です。皆さんもご存じのように、罪人は死んだ後、永遠のさばきである地獄に至るのです。

このことを頭に入れながら、もう一度、50節を見てください。「それを食べると死ぬことがないのです。」、死に向かっていて、また、死んでいた人がその死から解放されるからです。だから、「死ぬことがない」のです。霊的に死んでいた人が主イエス・キリストを信じることによって、霊的に生きる者となるのです。神と繋がることによって、神が約束されている永遠のいのちをいただき、永遠の滅びから救われるのです。「第二の死」を経験することがないのです。

次に、51節を見てください。主イエスは非常に大切なことを教えておられます。「わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。」とありますが、見ていただきたいのは「だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。」ということばです。「だれでも」とは「永遠に生きるための条件」を示しています。永遠に生きようと望むなら、このパンを食べなさい、それが条件だと主は言われるのです。永遠に生きるための条件です。第二の死を経験することなく、霊的にいのちをいただき、永遠の滅びから地獄から救い出されるために私たちに必要なことは、このパンを食べることです。もう何度も見ました。パンを食べるといえるのはパンを信じること、パンはだれなのか？イエス・キリストだと。そのことはこの後にもう一度見ます。

まとめるとこういうことです。主イエス・キリストは天から下って来たパンだと、主イエス・キリストを信じるすべての人にいのちを与える、そのいのちをいただいた人は「第二の死」を経験することがない、主イエス・キリストを信じなさいと、このメッセージです。

さて、多くの人たちは自分の信じていることが真理であると主張します。いろいろな宗教が存在しますが、皆さんは自分の信じていることが真理であると主張されます。私たちは「本当にそうですか？」と確認します。なぜなら、もし、それが真理でなければ大変なことになるからです。これを信じるなら永遠のいのちが与えられる天国に行けると聞いていて、実際にそうでないなら大変なことです。自分の永遠が掛かっている以上、信じるものが本当に真理なのかどうか確認しなければなりません。実は、イエスはこの51節で、ご自分が語ることが真実であることの証拠を挙げておられます。なぜ、イエス・キリストが罪人をその罪から救い出すことができるのか？なぜ、イエス・キリストが信じる人々に永遠のいのちを与えることができるのか？その証拠です。そして、信仰者である皆さんはこの証拠の上に立っているはずで、四つの証拠が挙げられています。

◎イエス・キリストが真理であることの根拠

1. 真の神である 51a節

51節の初めに「わたしは、天から下って来た生けるパンです。」と記されています。最初に、イエスが挙げられた証拠は「ご自分が真の神である」ということです。少し戻って48節には「わたしはいのちのパンです。」とあります。もっと、遡るなら35節では「わたしがいのちのパンです。…」と言っておられます。ですから、35、48節でも同じように「わたしはいのちのパンだ」と言われました。そして、51節では「わたしは、天から下って来た生けるパンです。」と言っておられます。なぜ、これがイエスが真の神であることの証拠なのか？「わたしは～である」はギリシャ語では「エゴ エイミ」と言います。イエスは敢えてご自分のことをそのように表現されているのです。ここでは「わたしはいのちのパンで

ある」と言われましたが、これはヨハネが記す七つの「エゴ エイミ」の第一番目のことです。なぜ、それが神であることの証拠なのか？

思い出してください。モーセがイスラエルの民のところに遣わされていくときに、出エジプト記3章に記されていますが、モーセは主に問い掛けます。「私が民のところにいったときにきっと人々は『だれがあなたを遣わしたのか？』とあなたの名前を聞くでしょう。ですから、どうぞ、お名前を教えてください。」と。出エジプト3：13、14「13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました』と言えば、彼らは、『その名は何ですか』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた』と。」、主はモーセに「わたしは、『わたしはある』という者である。」と言われました。イエスが「エゴ エイミ」、「わたしはこういう者である」、イエスはここで、ご自分があのモーセに名前を告げられた神ご自身であることを明らかにしたのです。イエスは何となくそのように言われたのではありません。そこには真理があるので。主イエス・キリストはモーセが主に尋ねたときに主が「わたしはある」と答えられた「それがわたしである」と言われるのです。だから「わたしはある」、「わたしはパンである」と、こうして、イエスは人々にご自分がだれであることを明らかにされたのです。

このイエスのメッセージを聞いていた多くの人たちはユダヤ人です。旧約聖書に通じていたはず。旧約聖書の教えよく聞いていた人たちです。ですから、その人たちにイエスは敢えて「あなたがたが学んだはずである神の名前、『わたしはある』というその名前、それがわたしだ」と、モーセに名前を教えた神がご自分であることを明らかにされたのです。

2. いのちの源である 51 a、b 節

同じ51節で、イエスはご自分が「いのちの源である」ことを明らかにしておられます。「わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。」と書かれています。

・いのちのパン： 先に見た35節、48節では「わたしはいのちのパンです」とありました。これはすでに見たように、イエスは「いのちを与えることのできる方」、また、「本当の心の渇きを満たすことのできる方」でした。与えたいのちのパンを保ち続ける方です。

・生けるパン： 51節では「わたしは…生けるパンです。」と言われました。表現が違います。イエスは「わたしは確かに「いのちのパン」です。いのちを与えることができるから。なぜなら、わたしは生き続けているから。」と言われるのです。「生ける神だ、死ぬことがない。わたしは永遠に生き続けている。」と言われます。だから、わたしが与えるいのちは「わたしのいのち」であって、永遠に生きる神はその永遠のいのちをあなたに与えると言うのです。だから、イエスは敢えてここで「生けるパン」だにご自分のことを言われたのです。生きているパン、永遠に生き続けているパンである、ですから、そのパンを食べるなら、あなたにもそのいのちが与えられると、だから、イエスは繰り返して「永遠のいのち」のことを話されたのです。永遠に生きておられる神が与えるいのちは「永遠のいのち」です。ですから、この51節でイエスご自身がいのちの源である、イエスがもっておられるいのちを私たちに与えてくださると言うのです。そのような方が他にいるでしょうか？永遠に存在している神、神と呼ぶにふさわしい方はこの方だけです。私たちの周りに存在する神は初めがあり終わりがあります。しかし、この聖書の神は終わりも初めもない、永遠から永遠に存在しておられる方、だから、この方だけが信じる者に永遠のいのちを与えることができるのです。

3. 犠牲となられたお方である 51 c 節

51節の後半に「またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」とあります。この部分を原語から直訳すると「世のいのちのためにわたしが与えるパンは、わたしの肉です。」となります。「世のいのちのため」、罪人の救いのためにわたしが与えるパンはわたしの肉であると。ですから、私たち人間の救いのために神が何かをしてくださるのです。このみことばが教えているのは、神ご自身がご自分を与えてくださるということです。私たちはそのことをよく知っています。十字架がそのことを明らかにしています。主イエス・キリストは十字架に架かって、あなたのためにご自分を犠牲にしてくださったのです。ヨハネは10：18にこのように記しています。「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」、自殺のことではなく犠牲のことです。主イエス・キリストは罪のない完全ないのちを、罪ある私たちのために犠牲としてくださることによって、私たちをその罪から救おうとされたのです。

パウロも同じことを私たちに教えています。ガラテヤ2：20の後半に「…いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」、パウロは

ちゃんと教えてくれています。パウロを愛してパウロのためにご自身をお捨てになった神の御子イエス・キリストを信じる信仰と。イエスは私のために何をしてくれたのか？パウロは言います。「私を愛し私のためにご自身をお捨てになった…」と、そのことは信仰者である私たちも同じことが言えます。イエスは私を愛して私のためにご自身を犠牲としてくださったと。ですから、イエスがこの51節で言われることは、イエスは喜んでご自身をあなたのために犠牲としてくださった。世のいのちのために、私たちのいのちのために「わたしが与えるパンはわたしの肉だ」、あなたのいのちのために主ご自身が犠牲を払ってくださったのです。

イエスはご自分が話しておられることが真実であることを証明するために、証拠を挙げてくださった。イエスは真の神であると、旧約聖書でご自分の名前を明らかにされた、その神だと言われました。そして、主はいのちの源であるゆえに、信じる人にいのちを与える、ご自分がもっている永遠のいのちを与えることができると言われ、三つ目に、この方は喜んでご自分を私たちのために犠牲としてくださった。そのようなお方です。歴史上の事実、十字架がそのことを明らかにしています。作り話を言っているではありません。イエス・キリストの十字架はあなたのためであった、あなたのために主が犠牲を払ってくださったのです。

4. 人となられた神である

また、51節です。今見た箇所「またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」と、この「肉」ということばは同じヨハネ1:14に使われています。「ことばは人となって、私たちの間に住まれた。…」と、この「人」が「肉」と同じことばです。ということは、

*** 罪人の救いのために神が人となってくださったこと、「受肉」のことです。**

先ほども見たように、イエスはあなたのいのちのため、救いのために犠牲を払っただけでなく、イエスご自身はそのために、犠牲を払うために人としてこの世に来てくださったのです。なぜなら、霊である神はあなたの身代わりに十字架に架かることはできないからです。あなたの身代わりとなって、あなたに救いをもたらすために神は人としてこの世に来てくださったのです。まさに、そのことをこの51節のみことばは私たちに教えているのです。

どうですか？皆さん、だれかがあなたに「どうしてイエスのことばかり話すのか？」と聞くかもしれません。イエスがあなたの罪を赦してくださって、永遠のいのちを与えてくださると、その根拠はいったい何なのか？と問われるなら、私たちはこのようにしっかりと聖書の箇所から答えることができます。なぜなら、主イエス・キリストは真の神である、イエス・キリストは旧約の時代にモーセに語られたその神だと、そのように伝えることができるからです。そして、この方にはいのちがある、この方は人間が造ったものではないゆえに、永遠から永遠に存在される方である。それゆえに、この方のいのちは永遠のいのちだと言います。この方だけです。ご自分を犠牲にしてあなたに救いを与えようとしたのは…。あの十字架がそのことを私たちに教えます。そして、この方はあなたの身代わりとなって死ぬために人としてこの世に来てくださった方です。

こうして、主イエスは51節のみことばで、なぜ、自分の話していることが真理なのか？そのことをこのような証拠をもって明らかにしてくださったのです。多分、皆さんもされたことがあるでしょう。私は仏教の僧にお会いしても神道の神主にお会いしても質問します。「なぜ、あなたのおっしゃっていることが真理だと言えるのですか？」と。お答えをいただいたことはありません。なぜなら、私たち日本人はそのようなお話を聞くと「ありがたいお話、信心の気持ちさえあればいいのだ」と言うからです。しかし、聖書はそのようなことは教えていません。皆さんの永遠が掛かっているのです。誤った選択をすればそれは永遠の損失を招くことになります。私たちは考えなければいけません。信じるもの、信じるようにと勧められている内容が本当に真理なのかどうか？みことばは私たちにこのイエス・キリストこそが、まことにまことに、永遠のいのちを与えることのできる存在だと教えています。

さて、このようにイエスは救いのメッセージを語り、なぜ、ご自分が真の救い主なのか？なぜ、ご自分だけが人を救うことができるのかをお話になりました。ところが、ユダヤ人たちはどうだったでしょう？52節に「すると、ユダヤ人たちは、「この人は、どのようにしてその肉を私たちに与えて食べさせることができるのか」と言って互いに議論し合った。」とあります。まだ、分からないのです。「議論し合った」、彼らは「口論したり、けんかをしたり」とそのような意味をもったことばがここで使われています。なぜなら、確かに、レビ記には「血を食べてはならない」という命令があるからです。レビ記17:10-14「:10 また、イスラエルの家の者、または彼らの間の在留異国人のだれであっても、どんな血でも食べるなら、わたしはその血を食べる者から、わたしの顔をそむけ、その者をその民の間から断つ。:11 なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。:12 それゆえ、わたしはイスラエル人に言った。『あなたがたはだれも血を食べてはならない。あなたがたの間の在留異国人もまた、だれも血を食べてはならない。』:13 イスラエル

人や彼らの間の在留異国人のだけれが、食べることでできる獣や鳥を狩りで捕らえるなら、その者はその血を注ぎ出し、それを土でおおわなければならない。:14 すべての肉のいのちは、その血が、そのいのちそのものである。それゆえ、わたしはイスラエル人に言っている。『あなたがたは、どんな肉の血も食べてはならない。すべての肉のいのちは、その血そのものであるからだ。それを食べる者はだれでも断ち切れなければならない。』」。このように記されているので「血を食べなさい、飲みなさい」と言われると、ユダヤ人の中には当然「この人は何を言っているのだろう？ 律法に反することを言っているのではないか？」と思った人もいるでしょう。だから、いろいろな議論が起こったのです。イエスは完璧な知恵をもっておられます。見事に、こうして彼らに対してご自分が言っていることを考えるようにと導いておられます。

この人たちは少なくとも、イエスが話しておられることを考えたのです。しかし、悲しいことに、議論し合ったのですが、イエスが言われることを正しく理解しませんでした。イエスはご自分の肉を食べて血を飲みなさいというようなことを言っておられません。イエスはこうしてユダヤ人たちがパンを求めて来たゆえに、そのことから霊的な話をされたのです。

B. 主イエスの保証、約束 53-59節

53節から59節まで、主イエスの保証が再びここに記されています。

1. 救われるための条件 53節

「イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。」と。ここに「人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、」いのちはないと言っています。ですから、これはいのちを得るための条件です。実は、ここでイエスが言われていることは、信仰をもってイエスを信じるということです。なぜ、これが救いのことなのか？ その説明をします。ここで「食べる」「飲む」ということばが出ています。この動詞の時制を見ると、不定過去という時制を使っています。これは「過去の一度きりのこと」を意味しています。お分かりでしょう、皆さん。「食べること、飲むこと」、これは一回きりのことです。イエスを信じる信仰もその通りです。何度も信じなければならないものではありません。一度、神によって救われた人は永遠に救われ続けるのです。あなたが一度「イエスを信じる」と心から決心して救いに与ったのなら、その救いを失うことは決してないのです。もう何度も学んで来ました。自分でそう思っているだけではありません。心からイエスを信じ、神がその人を救ってくださった、本物の救いをいただいた人のことです。

2. 救われた証拠 54節

では、自分が救われているかどうか分からない？ 次のみことばを見てください。イエスはちゃんと教えてくださっています。54節に「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」とあります。また、ここにも「肉を食べる」「血を飲む」ということばが出て来ました。同じことばです。ところが、時制が違うのです。53節は不定過去で一度きりのことと言いました。54節の「食べる」「飲む」は現在形を使っているのです。なぜ、そのような使い分けをされたのか？ 現在形だということは、継続して行なうことを指しているからです。

「信じる者たち」とは「信じ続けていく者たち」のことです。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者」、食べ続ける飲み続ける者たちは「救われている人」だと言っているのです。53節では、イエスを信じるその信仰によって私たちは救いに与るのです。54節では、「食べ続けていく」「飲み続けていく」、そういう人が本当の救いに与っている人たちだとイエスは言われるのです。ですから、彼らは最後の日に、イエスによってよみがえらされるのです。永遠の祝福へと…。

「食べ続ける」「飲み続ける」、継続して行なうと言いましたが、何を継続するのでしょうか？ それは、私たちが真理を学び続けることです。55節を見てください。「わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。」と続いてこのように書かれています。イエスは「わたしの肉が本当の食べ物であり、わたしの血が本当の飲み物だ」と、つまり、あなたの霊性において、信仰において有益なものだと言っているのです。皆さんも食事のために多分注意して食材を買われるでしょう。汚染されていないか？ とか、賞味期限は切れていないか？ とか、いろいろなことに気を遣って食材を購入して食事を作ります。なぜ、そのようにするのか？ 病気にならないためです。肉の食べ物でもそのように気を遣うのです。それなら、たましいに関してはもっと気を遣うことが必要です。

そこで、イエスは「わたしの肉を食べることは大切だ。これはまことの食べ物だから。わたしの血を飲み続けることも大切だ。なぜなら、これはまことの飲み物だから。」と言われます。イエスが言われていることはお分かりでしょう？ 霊的健康を維持するために、それにふさわしいものを食べ続けていきなさい、飲み続けていきなさいと言っているのです。何のことか？ イエス・キリストを信じた皆さん、主によって救われた皆さんは新しい心をいただきました。かつての私たちは神を求めていませんでした。神に逆らい続けるという選択をし続けた私たちです。でも、神がそこから私たちを救い出してくださる

ことによって、新しい心をいただいた、主に喜ばれることをしていきたい、もっと主のみこころを知りたい、この主をもっと知っていきたいと、そのような願いを私たちがもっているのは、私たちの心の中に主が働いておられ、私たちが救いに与ったからです。

ですから、救われた人たちはイエスの肉を食べ続け、イエスの血を飲み続けるのです。イエスによって、自分のたましいが、この信仰が成長することを望んで、それにふさわしいものを食べ続け飲み続けるということです。だから、クリスチャンは、本当に救われた人は神のみことばをもっと学んで、神の真理を知っていこう、この神をもっと知っていこうとします。そのような願いをもって生まれ変わった者です。だから、イエスは言われたのです。「わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。」と。これがあなたの役に立つのです。

こうして、皆さんがみことばを学んでそれを実践していこうとする、なぜそのような思いを持っているのか？あなたは生まれ変わったからです。だから、常にみことばを読み、主のみこころに喜んで従っていきたいと思っています。それは神があなたを変えてくださったからです。ですから、53節からイエスが言われていることは、一度、イエスを信じることによってあなたは救いに与ります。ですから、一回きりのことを明らかにするために、不定過去という時制を使い、では、本当に神によって救われた人たちはどのような生き方をするのか？その人は常に神の真理によって自分の信仰が養われていくことを望んで歩み続ける人たちだと、そのことを教えておられるのです。しっかりみことばを学び続けることです、皆さん。そして、学んだみことばを神の助けを頂きながら実践することです。

・主イエスの例 マタイ4：2-4

イエスは40日40夜の断食の後、サタンの誘惑をお受けになりました。そのとき、サタンがこのように誘惑しました。「：2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。：3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」と、4節「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」、イエスはこのように答えられました。イエスは「パンは必要ありません」と言われたものではありません。必要だけでもっと大切なものがあると言われたのです。自分の空腹を満たすことよりももっと大切なこと、それは心を満たすことです。そして、それができるのは神のおことばです。なぜなら、そのみことばによって、いったい何が神の前に喜ばれるのかを知ることができるからです。みことばによって、永遠に価値あるものが何かを知ることができます。みことばによって私たちの信仰は成長していきます。

ですから、一時的に空腹を満たすパンよりも、私たちの心を満たしてくれる、私たちの信仰を成長させてくれる、永遠に価値のある生き方を生み出すこのみことばがいかに大切か、そのことをイエスは言われたのです。だから、皆さん、順序を間違えると大変なことになります。みことばよりも私たちが肉の糧を優先したときに、確かに、美味しいものをいただいたかもしれませんが、心はどんどん荒んでいきます。いつまで経っても満足しません。いつまで経っても神の約束された喜び、祝福を経験できません。でも、心が神によって満たされているなら、何をいたこうと喜び、何をいたこうと満足しています。心を満たしてくれるのは神だけです。なぜなら、主の肉は私たちのまことの食物であり、主の血は私たちのまことの飲み物だと言われているからです。どうぞ、永遠に価値のある生き方をするために、私たちに必要な神のおことば、それを最も大切にして生きていってください。もし、肉の糧を優先している人がいるなら、いないことを期待しますが、悲しいことです。どんなにすばらしいものを得てもあなたの心は決して満たされることはありません。

3. 救いの祝された恵み 56, 57節

ここには再び、救いの祝された恵みが書かれています。「食べる者」への祝福です。56節「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。」

1) キリストとの生きた交わり 56節

救いに与った人に約束された祝福の一つ目は、イエスと親しい生きた交わりを持てるということです。「わたしのうちにとどまり、」と書かれています。神との親しい交わりを主は約束してくださったのです。この「とどまり」は現在形ですから、継続してその交わりは続くのです。

2) キリストの内住 56節

後半に「わたしも彼のうちにとどまります。」と、今度は、イエスご自身が私たち信仰者のうちに住んでくださると言うのです。どんな時にも主はあなたとともにいてくださる、そうです！あなたのうちに、聖霊だけでなく、主イエス・キリストもともにおられると言います。

3) キリストが力 57節

そして、57節では「キリストが私たちの力である」と教えます。「生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。」と、イエスは地上におられたときに、父なる神に信頼をおいて生きていたとそのことを言っているのです。そして、私たち信

仰者も同じように、この神に信頼をおいて生きることができるのです。幸いだと思いませんか、皆さん！自分で背負い込むか、神にゆだねて信頼して生きるかです。自分ですべてのことをしなければいけないとしたら大変です。不安だらけです。でも、私たちは全能なる神にゆだねて生きることができるのです。イエスが父なる神を信頼して歩んだように、我々も地上にあって信頼をおいてこの方に従い続けることができるのです。それが神が私たちに約束された祝福だと言うのです。

結論：

そして最後、58節「これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」、また、イエスはここでこのユダヤ人たちを救いへと導こうとしておられます。彼らは地上のことしか考えていませんでした。そこで再び最後に、イエスは彼らに「もっと大切なことがある。絶対に考えなければならないことがある。」ということをお話しになったのです。それは「救いのこと」です。

あなたはいかがですか？毎日忙しく生活していて一番大切なものを見落としていませんか？毎日の生活がもう本当に次から次へとゆっくり物事を考えさせてくれない。でも、立ち止まって何が一番大切なのかを考えることです。あなたの心が満たされていなければ、あなたが為すことをどうして神が祝してくださいますか？イエスがこのユダヤ人たちに教えようとしたことは「あなたがたは見ているところが間違っている。」と、一番大切なもの、第一に優先すべきことです。それはもしかすると私たち自身が学ばなければいけないレッスンかもしれません。

神としっかり繋がって、神のみことばによってあなたの信仰がしっかり養われ続けていくことです。そうすれば、どんな時にもあなたは喜びを持って、主を誉め称えながら感謝をささげながら生きることができます。それはすべて結果なのです、皆さん。そのような結果を生み出すためには、私たちはしっかり神に信頼をおいて、みことばにしっかり根付いて歩み続けていくことが必要なのです。

もし、この中にまだイエス・キリストを信じていない方がおられるなら、イエスがこのユダヤ人たちを招かれたように、皆さんを心から救いへと招きたいと思います。ヘブル書の著者がこのように言っています。ヘブル3：15「きょう、もし御声を聞かなければ、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」とされているからです。」と。あなたが心をかたくなにして救いを拒むなら、あなたの心が益々かたくなになっていくことを神はお許しになります。そんなことがないように、主の前に心を開いてこの救いを心からいただくことです。まだ、主イエスを信じていないなら、どうぞ、この主の招きに答えてください。主はあなたにこの救いを与えてくださいます。

信仰者の皆さん、今日、私たちが学んで来たように、私たちの信仰は「ただ何となく信じている。信心の心さえあればそれは良いのだ。」というのではありません。それで信じたのではありません。れっきとした証拠があります。確かに、みことばは私たちに、このイエス・キリストこそが救い主だということを明らかにしてくれています。語っていきましょう、この偉大な救い主を。この方によって信じるすべての者は確かに、永遠のいのちを得ます。それを語っていきましょう！

なぜなら、世の中の人はこのメッセージを聞かなければいけないのです。このイエス以外に罪の赦しはないからです。

《考えましょう》

1. 「第二の死」について説明してください。
2. 「永遠のいのち」を与えることができるとして、主イエスが挙げられた四つの証拠を記してください。
3. 「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ…」(53節)と、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は…」(54節)との違いを説明してください。
4. キリスト者にとって、真理を学び続けることがどうして大切なのか、あなたのことばで記してください。